

## 1 アムールトラの赤ちゃん誕生

飼育展示担当 宇佐美 均

大森山動物園では2005年3月からアムールトラの飼育展示を行っています。

当時はオスの「ウィッキー」(9歳)1頭だけでしたが、希少動物の繁殖を目指すため、2007年3月に東京都の多摩動物公園からメスの「アシリ」(9歳)を借り受け、2頭での飼育が始まりました。

10月に同居を始めて直ぐ、繁殖行動等も観察され、早々に2世誕生への期待が膨らみました。

12月になり、これまで定期的に観察されていたアシリの発情兆候が見られなくなりました。もしかして?と半信半疑ではありましたが、妊娠を想定して出産に向けた準備を始めました。

過去に3回の出産経験があるアシリですが、当園での出産は初めてであり、落ち着いて出産・育児ができるよう、念入りに環境づくりを行いました。

トラの妊娠期間は平均103日。計算すると、出産予定日は平成20年3月4日と考えられました。

出産予定日の当日も朝から落ち着いており、餌も完食し、出産の兆候はまったく見られませんでした。「今回はダメだったのかな」と思い始めた2日後の3月6日、気分転換させようと朝に1時間ほど外へ出してあげました。これが良かったのか、夕方から産箱の中で落ち着きなく動きまわったり、転がる行動が観察され、餌も食べず、明らかにいつもと違う様子で、出産が近いことを感じさせました。

そんな状態が少し続いた後の午後6時30分に1頭目、午後8時40分には2頭目と、かわいいメス2頭の赤ちゃんが無事に生まれました。直ぐに授乳も確認され一安心。その後も順調に授乳や子供の体を舐めてあげる等の親子関係が観察され健やかな成長が伺えました。

生後半年余りになる今では、「アルル」「ミルル」とかわいい愛称もつけてもらい、母親アシリを狩りの練習相手にして飛びかかったり、餌を独り占めしようと威嚇行動を見せたりと、毎日元気に動き回っています。体の成長、猛獣としての迫力も身に付いて来ているようです。



生まれた次の日の様子  
おっぱいを飲んでいます



3月17日撮影  
まだ、産箱内で育っています



6月3日撮影 展示場に出始めた頃



8月30日撮影 アルル  
どんどん大きくなっています



お見合いが成功して仲の良いウィッキーとアシリ

## 2 新たなチャレンジ「イヌワシを間近で」

飼育展示担当 佐々木 祐紀

イヌワシが大森山動物園で繁殖し始めて5年目を迎え、これまでに7羽のヒナが無事に育ちました。本来イヌワシは2個の卵を産み、2羽がふ化してもヒナ同士の争いで1羽のヒナしか育たない現実があります。試行錯誤の末、複数のヒナを育てる方法を編み出し、全てのヒナを育てることに成功しました。今年もヒナがふ化し、今回は人の手で育てる新たな試みに挑戦しました。

イヌワシは遠くにとまっている印象が強い、なかなか近くで見ることの出来ない動物です。「大きさを実感してもらいたい」、「間近で見てもらいたい」との思いから、人の手で育てる試みに挑戦しました。大森山では前例のない試みのため、試行錯誤しながら進めました。

ヒナは「風(ふう)」と名付け、風の人の手から餌をもらう生活が始まりました。餌にはすぐ反応し、嫌がることなくよく食べ一安心。定期的に園内で日光浴をしながら、環境にも慣れていけるようにしました。弱々しい「風」も日に日に大きくなり、少しずつ黒い羽根も見られるようになりました。順調に育ってはいたものの、立ち上がるまで思っていた以上に日数がかかり、大丈夫なものかと心配でたまりませんでした。それでも生後約1カ月でやっと2本足で立ち、力強さが感じられるようになりました。ようやく立ち上がった時は本当に嬉しく思いました。その後もどんどん成長し、親元で巣立ちを迎える生後2カ月半頃には親と同じような姿になり、体重も約3kgまでに成長しました。だいぶ人に慣れてはきているものの、長い時間、落ち着いた状態で大勢の人前に入るのにはまだ少し時間がかかりそうです。近い将来、お客様の目の前で「風」の勇姿を見せていけたらと思っています。



誕生より9日目 飼育員よりエサをもらっている様子



生後約7カ月  
飼育員の手にとまる様子

## アメリカビーバー 初めての出産と子育て

飼育展示担当 菅野 達也

今年の6月に、アメリカビーバーのメスのモリコが、子どもを出産しました。

モリコは3歳とまだ若いこともあり、今回が初めての出産でした。そのため、無事に出産でき、そしてちゃんと子どもを育てられるだろうか、という不安がありました。

そんな心配をよそに、モリコは無事2頭の子どもを出産し、その後も丁寧に子どもたちを育てました。毛づくろいをして子どもの体をきれいにしたり、母乳を飲みやすいようあおむけになって寝たり、子どもをプールから室内にくわえて運んであげたりと、初めての出産とは思えないほどしっかりと子育てをしていました。

そんなモリコが母親になってから変わったことがあります。それは、担当者が近くにいると気にしなくなったことです。肝が据わったとえばよいのでしょうか。もしかしたら、子育てにかなりの労力を費やしていたので、ほかのことを気にする余裕がなかったのかもしれません。

子どもたちはそんな母親のもとですくすくと育ち、いまではすっかり離乳し、親たちと同じものをもりもり食べています。もう赤ちゃんと呼べるような大きさではなくなり、ひとりで行動する時間も増えてきました。今、育児が一段落したモリコは、ゆったりのんびりと、きままに毎日を過ごしています。モリコ、お疲れさまでした!



生まれて数日後の赤ちゃん



兄弟ですくすく成長中!



子供たちを運ぶモリコ



授乳中の様子